

あいあいあい

I eye 愛

2023年
1月号



合成洗剤を使わない! と意思表示する看板



重茂地区音部漁港の青い津波の写真
(出典: 重茂漁業協同組合 HP)



岩手県宮古市重茂を訪れたあいコープみやぎ理事たち

「シャボン玉フォーラム in みやぎ」開催で 石けん運動 飛躍の年に!

理事長 高橋 千佳

新春のお慶びを申し上げます。あいコープは今年も、石けん使用を入り口に水環境を守る運動を続けま

す。今年9月には、あいコープがホストとなり11年ぶりにシャボン玉フォーラムを宮城で開催します。

開催に先立ち、昨年の10月に岩手県宮古市にある重茂(おもえ)漁業協同組合を訪れました。三陸海岸の本州最東端で外洋に突き出した半島の沖合では、寒流と暖流がぶつかる好漁場が広がり、半島の深い原生林から流れ出すミネラル豊富な水はわかめ、あわびの養殖に適しています。また、定置網や小型船で収穫した魚たちが宮古魚市場に水揚げされる自然豊かな美しい場所です。

重茂では、地域ぐるみで石けんを使用しており、合成洗剤追放の看板があらこちに設置されています。1970年代、自分たちが毎日使っている合成洗剤があわびの水揚げの減少に悪影響を与えていると気付いたことをきっかけに、「合成洗剤追放運動(売らない・買わない・使わない)」をスタートしました。地域一丸となって先祖から受け継いだ森や海の環境を守ることを最

優先にしています。

東日本大震災では大津波が襲い、国内最高海拔40.5メートルを記録した場所もあるほど被害も甚大でした。「重茂の津波は青かった」と言われる1枚の写真があります。もしや石けん運動の成果?と尋ねると、青いのは外洋に面しているからだという答えが返ってきました。しかし、重茂の皆さんの海を守ろうとする想いは確かなものです。湾では、人間が海へ垂れ流した有害物質がヘドロとして溜まり、黒い津波となって人間に返ってきました。この警鐘を忘れてはならないのです。

マイクロプラスチック問題、温暖化による魚種の変化、アルプス処理水の海洋放出など、課題が山積みの今、震災から12年を経た東北の地に全国から石けん運動の仲間を集めます。震災を忘れないこと、水環境を大切にすることをテーマに進んで参ります。あいコープが石けんしか扱わない理由を、組合員全員で全国に発信していきましょう。

※シャボン玉フォーラム・石けん使用を入り口にした環境保全を目的に活動する「せっけん運動ネットワーク」の加盟団体により、持ち回りで年に一度行われる全国大会。

CONTENTS

- ▶生産者から新年の挨拶 ... 2
- ▶無農薬の稲作って? 学習会開催 ... 3

- ▶秋のフォーラムが開催されました ... 4-5
- ▶あったかおでんで冬を愉しもう ... 6

- ▶「脱炭素社会実現への課題」講演会開催 ... 7
- ▶生産者にあいに行こう「七郷クローバースファーム」 ... 8

謹賀新年 2023

生産者から新年のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
いよいよ、新たな年がスタートします。
みなさん、どんな新年を迎えられたでしょうか。

昨年は何といても、あいこープ交流の最大の魅力である
「Wa!わぁ祭り」が、4年ぶりに対面で開催されたことは、
我々共生会 生産者にとっても非常に喜ばしい事でした。

それも、販売・試食が無いという、まさに「交流」だけという新たな挑戦。
結局、それを唯一出来る生協が、あいこープでした
組合員さん、職員の皆さん、そして生産者：みんなで作ったお祭りです。
やっと会えた時の、皆さんの笑顔が忘れられません。

近年、コロナ禍も長期的に続く中、戦争や異常気象など、
目を覆うような出来事ばかりで塞ぎこみがちな状況にあります。
実際、私自身も 約半年間 苦しんだ時期もありました。

しかし結局、それを救ってくれたのは

「人の輪」の力であり、
「あいこープの輪」の力でした。

身近なスタッフ、生産者の仲間たち、そして職員の皆さん、
組合員の皆さんの声でした。

私は決して、それを忘れませんし、
これからその「Wa!輪」を大切にしていきます。

みなさん！ ぼちぼち、ゆつくり やっていきましょう。

七郷クローバースファーム

あいこープ共生会会長 細谷 滋紀



新年明けましておめでとうござ
います。

「花たまご」「花兄園プリン」で
お世話になっている花兄園の大須
賀裕です。

昨年はコロナ禍の中で年明けを
迎え、どこを切っても金太郎飴のよ
うにネガティブな記憶が出てくる、

生産者としても生活者としても苦
しい一年となりました。その影が色
濃く残る中で新年を迎えました。

当たり前と思ってしてきた「いつも

のもの」をお届けするということが
大変難しく脆いものの上に成り立
っていることを痛感しています。そ
の中で産直の在り方、交流の在り
方を改めて問い直し、進化させる
時期に来ていると思います。

今年は産直産地として組合員
様、あいこープの皆さんと、より良
い商品、新しい産直を共創していく
進化の年にしたいと思います！



花兄園
大須賀 裕さん



丸友しまか
島香 友一さん

2023年になりました。今ま
で、鮮魚中心で企画を組んで頂き
ましたが、今年は「魚屋だから出来
る加工品」にも注力し、組合員の
皆様へ、三陸の魚介類を食べやすい
形にしてお届け出来ればと思っ
ています。

また、今年は、組合員さんとの交
流も出来たらよいなど。昨年の
「Wa!わぁ祭り」で改めて組合員
さんとの交流っていいなって思っ
ました。

昨年は不漁の一年で非常に厳し
い状況でした。今年は、もちろん豊
漁を願いますが、ALPS処理水の
海洋放出が行われる見込み。水産
業にとっては、試験の年になりそ
うですが、各種検査などを行い、安心
して三陸の魚介類をお届け出来る
ようにしたいです。

想いはいろいろありますが、皆さ
んにとって「幸多い一年であります
ように」。

田植えはスタートじゃない ゴールなんだ

〜館野かえる農場 その驚きの無農薬農法〜

あいコープみやぎでは、様々な課題を抱えながらも、生産者と共に無農薬、減農薬、そして有機農業に取り組み、組合員も一緒に学習しながら理解し買い支える活動を続けています。

今回の学習会の講師は30年間無農薬・無化学肥料での栽培に取り組まれている館野廣幸さん。10年間は失敗の連続だったといいます。しかし今では、肥料はなんと雑草・肥料を買っていないから、ここ最近の肥料価格の高騰の影響もない、有機農業は有機肥料を使うことではない、雑草との闘いでもないと話され、参加者全員興味津々。

毎年組合員が農業体験している無農薬の交流田では、田植えてからは暑い中で草取りに必死になっていました。水の管理や育苗、代掻きの時期や回数など、田植えまでの作業により雑草をコントロールすれば、植えた後は見守るだけ。「稲刈りじゃなく田植えがゴール!」という館野さんのお話は、農業の専門家ではない私たち



尊敬する宮沢賢治に扮する館野さん



奥様が描いたという紙芝居
カエルの視点で田んぼの事情が描かれている

組合員にもわかりやすく、思わず挑戦してみたいくなります。

私たち消費者は、目に見える、たとえばお米がカメムシによって黒くなる斑点米に気にするけれど、目に見えない農薬の毒性の方が問題だと、化学肥料や農薬が身体・環境・生態系に及ぼす影響についてもお話いただき再認識することができました。参加したあいコープの若手生産者からは「自分がやりたかった農業は間違いじゃなかったと確信を持てた」と感想をいただきました。

館野さんは「なぜ宮沢賢治は農民になったのか」も研究されており、大変興味深く面白いお話を聞くことができました。賢治が目指した「多くの生き物と共に生きる農業」、それを「館野かえる農場」としてかえるや他の生き物、自然との共生を実践されている館野さんのお話は、持続可能な社会を作ることを目指すあいコープにとって大きなヒントとなりました。

理事 原子 良恵

食べ物の「安全」「安心」だけじゃない

フェアトレード学習会 開催

11月17日、バランゴンバナナでお馴染みの「オルター・トレード・ジャパン（ＡＴＪ）」の黒岩さんと小島さんを講師に『高い？安い？ましま通信のバナナ・エビ・オリーブオイル』と題したオンライン学習会を開催し、22名が参加しました。

ＡＴＪの民衆交易（フェアトレード）は、1984年、砂糖の国際価格の暴落により飢饉に陥ったフィリピン・ネグロス島の人々を救援するため始まったキャンペーンにルーツがあります。その活動は今でもマスコバド糖の交易として健在ですが、その精神はバランゴンバナナやエコシュリンプ、遠くパレスチナのオリーブオイル、インドネシアの力カオなどに広く受け継がれ展開しています。

共通するのは、日本の私たちの食卓に安心・安全を届けるとともに、弱い立場に置かれがちな産地の人々から搾取するのではなく、ともに豊かになること。当日は動画を交えて産地の最新事情も聞くことができ、ますますフェアトレードの商品を応援したい！という思いを強くしました。

理事 石井 朱里

このページで紹介した
二つの学習会は
「Wa! わあ祭りおかわりっ」で1/31まで
無料で配信中！
お申し込みは↓↓



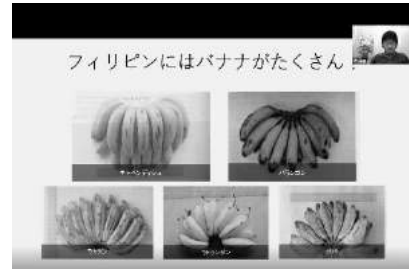
あいコープのイベントの
お知らせ
あいコープのイベントの
お知らせ



エコシュリンプの出荷まで



バナナの収穫風景を動画で



あいコープのバナナはどれ？

宮城野・
若林地区
11/25(金)



品種で味が違うことを実感



鍋布団での炊飯をレクチャー

みんなのまいらぶ米 食べくらべて味て見て！

宮城野・若林地区のフォーラムは「お米」がテーマ。炊飯器だけではなく、沸騰した鍋を布団で



包んで余熱調理する『鍋布団』も使ってご飯を炊きました。ふっくら炊きあがったまいらぶ米(まなむすめ、げんき丸)と、七郷クローバースファームのひとめぼれを食べ比べ。改めて違いを実感しました。

おかずはご飯が進むあいシテルの味付けロース肉!彩綺麗な中玉トマトやブロッコリーなど、クローバースファームのお野菜も美味しくて、お話を直接聞いたからこそもっと注文しようと思いました。

宮城野・若林地区担当理事
中島 恵子

青葉 A・B 地区
10/27(木)



パスちゃん牛乳で スイーツドリンクを楽しもう

あいコープの看板商品の一つ、パスちゃん牛乳を学ぶ青葉 A・B 地区の秋のフォーラム。当日は、パスちゃん達、乳牛を育てている、ながめやま牧場を動画で紹介し、市販牛乳との違いや牛乳を選ぶ際のポイントを、飲み比べながらご説明しました。また、パスちゃん牛乳を使用して、抹茶わらびもちミルクやバナナスムージー、甘酒ミルクのレシピを紹介し、みんなで楽しみました。パスちゃん牛乳について、価値の高さと美味しさを再確認し合い、この貴重な牛乳が協同の力により低価格で購入できる有り難さを実感した会となりました。

青葉 A・B 地区担当理事 八重畑 ゆかり

会えるっていいね 楽しいね

感染対策に気を付けながら 少しずつ「対面」の活動が戻ってきました
あいコープの商品学習会「秋のフォーラム」を
対面で開催した4企画をご紹介します

太白地区
11/30(水)



お土産の「味噌がんづき」



調理する地区委員の皆さん

お味噌で免疫力アップ 発酵のお話と味噌を使ったアレンジ料理

鎌田醤油(株)の鎌田専務を迎えてのフォーラム。大豆の煮方の違いで味噌の色に違いが出る事は新しい発見でした。家でみそを作っていると菌が守ってくれて、変な菌が入りにくくなるお話も興味深かったです。

市販のみそとあいコープの“仙台みそ”の原材料・価格の比較では、あいコープのみそは宮城県産の原材料を使用していて価格も高くない事がわかりました。みそ汁を気軽に日常に取り入れられる「みそ玉」や、幅広く利用できる味噌マヨや、タルタル味噌、ハーブ味噌などのレシピを教えて頂き、早速活用したいと思いました。お土産に頂いた、味噌がんづきも家で作ってみたいと思います。

太白地区委員 N・H

泉 A・B 地区
11/2(水)



ワンプレートに盛り付けて

深掘り♪タンポポ村 ポロニアソーセージとロースハム



ポロニアソーセージのケーキサレ

今年のフォーラムは3年ぶりの対面で、食育コンダクターの本吉さんと若生さんをお招きして、ポロニアソーセージ入りのケーキサレ、ロースハムと天童りんごのソーなど教えていただきました。どれも美味しそうで、歓声が上がりました。レンコンの酢漬けや、合間に茹でておく便利な食材、栄養分を逃がさない方法など調理のワンポイントのみならず、フライパンの使い方等々幅広くお話いただき、参加者からは「感激と美味しさと色々な知識を得られ、良い体験をさせていただきました」との感想がありました。

泉 B 地区担当理事 佐藤 有子

11/25 「2022 年 全国 GM ナタネ自生調査 院内報告会」

全国の仲間たちが参議院会館とオンラインで集まり、各団体が GM ナタネ調査報告と環境省・農水省との意見交換会を行いました。18 年も続いている市民レベルの科学的調査はコロナ禍にも負けず広がり続けており、行政が調査しない場所でも自生する GM ナタネを確認・排除することで「目に見えない遺伝子の汚染」から守るという貴重な成果を上げています。調査キットがコロナ・ウクライナ問題・円安の影響で価格高騰との報告は衝撃でしたが、知恵と工夫と協力で乗り切り、この大事な活動を続けなければ、思いを新たにしました。

理事 辻 朗子



あいコープの調査結果も
担当理事から報告されました

12/4 あいコープふくしまの「あいコープ祭り」に参加

今年是对面が可能となったあいコープふくしまのお祭り。入場制限がありながらも、多くの組合員が参加し活気ある祭りとなりました。会場となった郡山市のビッグパレットふくしまに理事4名と職員1名が訪れ、あいコープみやぎのブースを開きました。

ブースでは、昨年秋1周年を迎えたあいコープミートセンターの紹介をし、あいあいファームの豚たちが食べている飼料を展示して参加者と交流しました。

理事 鈴木 真奈美



オープニングは
フラダンス♪
パスちゃんもアローハ!



参加者は
豚の飼料を触ったり
匂いを嗅いだりしていた

わだいの
たねまき



生産者と組合員の共同開発 「もっと欲ばりおでん種セット」って 知ってる??



冬本番。煮込んだアツアツおでんの湯気。とろける大根としっかり味のしみた練り物…。

まんま通信に掲載される高橋徳治商店の「おでん種セット」は内容違いで数種類あります。その中に組合員が生産者と共同開発した「もっと欲ばりおでん種セット」があるのを知っていますか？

2018年、青葉B地区委員会の組合員と、練り物を製造している東松島の『高橋徳治商店』、そして「プロの味」でお馴染み名取の『まる』食品の3者が集い、組合員に愛されるおでん種を作ろうとプロジェクトが発足。まる「食品の濱口さん」からだしの基礎知識を教わり、配合の違う10種類ものだしから1つを選びました。高橋徳治商店が自信を持ってお届けする「ぼたんちくわ」や「わかめはんぺん」「ぼう揚げ」などを実際に煮込み、試食を重ねて「これ」というだしを選びました。



商品化されてから5度目の冬。練り物にぴったり合うブレンドのだしパックがついたこのセットは変わらず好評です。

高橋徳治商店の練り物は添加物に頼らない本物の練り物。作りたてが冷凍されて届くので、使いたい日いつでも調理ができます。グラグラさせず静かに煮込むのが美味しさのポイント。1月4回と2月4回のまんま通信で注文できますよ。たまごやこんにやくなど、おでんに欠かせないその他の具材の注文もお忘れなく！



ええのう えんのう

仙台えんのう倶楽部の情報を毎月お届けするこのコーナー
第22回目は、「産地応援し隊」作業に参加した理事の太田代一世さんからの報告です。



作業をする太田代さん



人の手でしかできない作業

慣行栽培よりも手がかる、あいコープの産直農産地の人手不足の問題。今までは仙台えんのう倶楽部の皆さんが引き受けてくださっていたことを自分の中でしっかり理解できたのは、恥ずかしながら今年に入ってからです。組合員が食べる物を作る現場の助けになる組合員活動ができたらいいな、という思いが、形になり動き出したのが「産地応援し隊」です。

その一員として「ネギのや」とい「作業（8ページに関連記事）に参加しました。土に触れ、黙々と作業するのは性に合うのか楽しくさえ感じました。午前中の2時間だけだったからかもしれません。普段の生活で時々起こる腰痛もこの日は大丈夫でした。農作業には腰痛や膝痛がつきもの…と敬遠する方もいるかと思いますが、それでも自分ができる範囲で参加してもいいのではないかと思います。

そして何より嬉しかったことは、前日産地応援し隊の一員として参加した夫に対して、生産者の皆さんが感謝を伝えてくださったこと、腰は大丈夫でしたか？と気づかいをしてくださったことです。大勢の人が少しでも関わりを持つその輪が広がって、組合員が産地と自分が食べるものをしっかりと支える形が確立していったらいいなと思っています。

組織概要

(2022年11月分)

【組合員数】	15,774名
【供給高】	258,165千円
【一人実利用高】	5,599/週
【出資金】	1,333,724千円

理事会議事録抄

2022年12月6日(火)

▼12月以降の組合員活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について決定した▼2023年度第34回総代会議案書の策定について承認した▼2023年度第34回総代会の日程、場所、開催方法について承認した▼「水なきや生きていけないでしょ？」貧困問題を考える企画日程を承認した▼2月組合員交流会企画を承認した▼2023年度GMナタネ自生調査隊企画を承認した▼「Wa! わあ祭りおかわりっ」企画について承認した。

ちょっとひとこと

●巻頭の常務理事の言葉は、すごく刺さりました。国防とは、ほんとに、武装することじゃないですよ。もっと子供たちが農業に夢を抱けるようになると思います。(あいあいあい12月号読者アンケートより)

脱炭素社会は実現可能か？

11/7 明日香壽川氏(東北大学教授)講演会開催

ますます悪化する気候危機。未来のために私たちはどうしたらいいのか、東北大学教授の明日香壽川先生にご講演頂き、オンラインで32名が参加しました。全世界では気候変動が原因の難民がなんと毎年2150万人も発生しているとのこと。しかもより影響を受けているのはCO2排出の少ない貧しい国々という理不尽な状態です。

情けないことに日本は先進国の中でも、石炭火力を手放そうとしない、再エネより原発に力を入れる等、大手電力の既得権益を保護するような政策が目立ちます。明日香先生によると、脱炭素を進める最大のポイントは雇用創出と雇用転換で、CO2を多く排出する6大産業と言われる発電、鉄鋼、精油、セメント、化学、紙パルプの雇用数15万人が雇用を失うとしても、再エネ産業を進めることで28万の雇用が生まれると推定されるそうです。しかも石油などへの支出が大幅

に減るため経済的でもあるそうで、やはり再エネを進めていくことが必要だと感じました。ただし再エネでも環境負荷のあるものには反対していかねればなりません。

原発は投資の割にはCO2削減効果が少なく、効果がでるスピードも遅く気候対策としては悪い選択であるそうで、危険なだけではなくコストや効果の面でも劣っていることが分かりました。

脱原発エネルギーシフト委員会
担当理事 櫻井 洋子



明日香壽川先生

この学習会は「Wa! わぁ祭りおかわりっ」で1/31まで無料で配信中↓↓



この学習会は「Wa! わぁ祭りおかわりっ」で1/31まで無料で配信中↓↓

私のオススメ商品



私のおすすめ商品は、あいあいファームのこめ豚セットです。特に豚バラスライスは脂身と赤身のバランスが良く、臭みもなく非常に食べやすいです。薬剤には頼らずにのびのびとストレスをかけずに育てているからこそこの味わいとなっています。一押しの食べ方は、豚肉、もやし、ニラを炒め塩胡椒で味付けをしたシンプルな炒め物です。豚肉の脂身が味全体を纏めてくれ、大変美味しく仕上がります。冬場は白菜を豚肉で挟み層にしたミルフィーユ鍋が良いですね。豚肉の脂身が苦手な娘もあいあいファームの豚肉は大好物です。豚肉は種類が豊富ですので是非ご注文下さい。

事業部 供給課 阿部 圭一

編集後記

ワカサギ釣りが趣味の一つ。氷が張れば福島県の檜原湖で氷穴釣りをしています。15年前は全面凍結するのが当然でしたが、近年は寒さが緩く氷の条件がいい期間が短く、氷に乗れない年もありました。ゲリラ豪雨・ドカ雪・酷暑・台風・極端すぎる気候に翻弄される人間たち。気候変動、これはまずいと世界中が思っているはず。何かアクション起こせている？私のひとりのできることは小さいけれど、四季のある、温帯湿潤気候の日本であり続けるように、つつましく暮らしたいと思っています。

理事 鈴木 真奈美

Present

アンケートプレゼント

機関紙あいあいあいにご意見感想をお寄せください。抽選で3名の方にあいシテル商品をプレゼント！右のQRからどうぞ。



ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいこーぷみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2022年11月分)

ささえあい(保障)	1件	◆集団託児	16時間
たすけあい(ケア)	6件	利用延べ人数	5名
集団託児	4件	◆ケア時間	
慶弔・出産・お見舞いBOX	56件		
電話相談窓口	11件	* Covid-19 の為、活動を	
計	78件	制限しています。	

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ

0120-50-7277 平日 9:00~16:00

年金相談・・・2/14(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30~15:30

法律相談・・・2/14(火)、2/22(水) 弁護士 倉林千枝子氏

13:30~15:30

傾聴・・・2/14(火) NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏

10:00~12:00

子ども相談・・・2/21(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

10:00~12:00

介護相談(ケアプランセンター山崎彰子氏)は相談希望日をうかがいます。

▼随時受付可能です。各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ちよつとひとこと

●初めての参加でしたが体験コーナーやクイズがあり楽しませていただきました。生産者の方々とも直接お話し出来有意義な一時を過ごせました。今後の購入の参考にさせていただきます。(Wa! わぁ祭り参加者アンケートより)

鍋には欠かせない 甘く瑞々しい「曲がりネギ」

七郷の若手生産者が育てています



規格外の手ネギの野菜？
違います！
仙台名産「仙台曲がりネギ」

11月、育てたネギを一度抜き取ります。機械でやると根を傷つけてしまうので、一本一本手で抜いていきます。それをハウスに運び、寝かせて土をかける「やとい」という作業をします。この手間をかけないと「曲がりネギ」はできません。しかし農家はいつも人手不足。今年はやとい作業も、仙台えんのう倶楽部や産地応援隊の組合員が活躍したそうです(本紙6ページ「えんのうえんのう」参照)。



トラックで運んで



寝かせて土をかけます

12月のある日、仙台市若林区七郷のハウスに整然と並ぶネギを前に、クローバーズファームの皆さんにお話を伺いました。このネギたち、倒した状態で土をかけられています。ここから上へ伸びて行こうとすることで白い部分がカーブし、「仙台曲がりネギ」となるのです。柔らかく甘い冬の味覚です。

このネギは5月に種を蒔きました。ハウスで育苗後、定植して除草や土寄せを繰り返し、じっくり育てられます。病気になりやすい作物なため、慣行栽培では農薬を使用する回数が多いのですが、こちらでは定植前と定植後の2回しか使いません。



いったん抜きますが
これが「収穫」ではありません

出荷が2月ごろ…ということは、栽培期間が約10ヵ月！雑草と戦い、「他の作物の作業と並行して、ネギの管理をするタイミングを見極めるのが意外に難しい」と、曲がりネギ収穫までの苦労を話してくれた若手生産者の佐藤文彦さん。七郷の気候や土の特徴に合わせ、工夫しながら仙台の伝統野菜を作り続けます。

一度土から出され植え直されても、たくましい生命力で太陽に向かって伸びようとするネギ。寒い季節、体調を整え免疫力を上げるためにも、手間をかけて育てられた甘くて栄養たっぷりの「曲がりネギ」を美味しくいただきましょう！



農事組合法人 七郷クローバーズファーム

細谷 滋紀さん・佐藤 文彦さん・工藤 孝輔さん

趣味が、スノーボード、サーフィンという事もあり、自然豊かな生活への憧れから就農をしまして7年目になります。実際働いて、自然相手の大変さ、難しさを年々深く感じてきています。

1つの農産物の収穫までには、長い時間がかかります。畑や田んぼを耕すことから始まり、苗を植え、除草作業、害虫の駆除をして肥料をやり、数ヶ月かけ沢山の作業を積み重ね、ようやく収穫にたどりつきます。苦労も多いですがその分、やりがい、楽しさ、魅力も感じています。

私自身が4年ほど前に大病を患い、闘病生活を送りました。それを機に健康の大切さを実感し、たばこも止め、農薬を使うことにもそれまで以上に抵抗を感じるようになりました。農薬を減らすことは食べ手にも作り手にも安心だと感じています。

クローバーズファームでは、今後も安全、安心な米、野菜をお届け致しますので、どうぞご賞味下さい。これからもかっこいい、おしゃれな農業目指して行きたいと思っています。

佐藤 文彦

1/20金

石けん環境委員会主催 「オンライン de 布おむつ談義」

布おむつによるトイレトレーニングや
おむつなし育児についてのお話

場所/オンライン (zoom) パソコン、スマホで
時間/10:00~11:15 参加費/無料
講師/すだゆうか氏 申し込み〆切/1月13日

1/27金

映画「教育と愛国」上映会

知ってほしい
教科書で“いま”何が起きているのかを――

場所/宮城野区文化センター パトナシアター
時間/①10:00~12:00 ②13:00~15:00
参加費/1000円 申し込み〆切/1月20日

2/10金

理事会主催 貧困問題学習会

「水なきや生きていけないでしょ!」

貧困問題を考えるZ世代の若者から

場所/仙台市中小企業活性化センター・オンライン
定員/会場50名 オンライン100名
時間/10:00~12:00 参加費/無料
講師/森 進生氏 申し込み〆切/2月3日

各種イベントの
お申し込みは
こちらから→



1/31まで開催中

Wa!わあ祭り おかわりっ



お祭りで行われた学習会の録画をYoutubeで視聴!

- ①鈴木宣弘氏講演会
- ②明日香壽川氏講演会
- ③フェアトレードバナナ学習会
- ④館野かえる農場のおもしろ農業話

女川原発が止まってから

4323 日目

(2023年1月9日現在)